

就農誘致活動と新規就農者の定着支援

ねらい

阿南市加茂谷地区では、地元有志からなるNPO法人加茂谷元気なまちづくり会が積極的に移住就農の誘致活動を行うなど、担い手を確保・育成する機運が高まっている。阿南農業支援センターは、同NPO法人の発足当時から伴走支援を行い、関係機関である市役所やJAなどと連携することで、これまで同地区への7戸の新規就農者の受入れを支援してきた。この成功事例をもとに、管内全域を対象とした担い手不足解消に向けた新規就農者の育成を目的に、市町・JA・県の連携による取り組みを実施した。

活動地域・対象

活動地域：阿南市 那賀町
対象：新規就農者・就農希望者

普及活動の目標

- ・地域が一体的になって自主的に取り組む仕組みづくり支援
- ・新規就農者の技術習得に向けた強力な支援体制づくり支援

目標に向けた活動概要

①新規就農者をサポートする地域づくり「農の里」

加茂谷地区はチンゲンサイの産地であり、地元の篤農家が新規就農者を指導する体制が整っている。この体制を他地区に広げるために、市町・JA・支援センターで構成する「阿南・那賀未来の農業づくり協議会」において、主体的に地域で新規就農を支援する「農の里」づくりを提案した。

②就農するまでの伴走支援の強化

一般的な新規就農では、市町が窓口となり、その後JAや支援センターが就農相談に乗り、地元農家での研修等を経て就農する。この流れでは、各機関での支援が“縦割り”となってしまう、ミスコミュニケーションにより就農を断念するケースも見受けられた。一方で、加茂谷地区での新規就農は、地元農家が窓口となり、支援センターが各機関での就農相談に随行しサポートすることで、スムーズな就農に結びつけた。そのため、他地域においても、このような伴奏支援を強化することで、円滑な就農が実現できると考えた。

③新規就農者の経営発展に向けた支援

新規就農者を指導する中で、経営が軌道に乗りはじめ、例えば規模拡大の目処が立った就農後3～5年の農業者からは、経営発展に向けた相談を受けることが多くなった。そこで、関係市町と連携し、農業経営相談所の利用や補助事業・制度資金の活用を提案した。

普及活動の成果

① 新規就農者をサポートする地域づくり「農の里」

「農の里」事業では、令和元年度から、「ゆず（木頭地区）」、「ケイトウ（相生地区）」、「キュウリ（阿南北部地区）」、「ハウスすだち（加茂谷・桑野）」の里づくりを推進することとし、新規就農者を受け入れる産地づくりを順次実施している。具体的な取り組みとしては、篤農家が新規就農者に助言や指導をする「チューター制度」であり、篤農家を中心に、地域ぐるみで新規就農者全員を成功させようとする取り組みを実施した。

これらの品目以外でも、すだち、イチゴ、菜の花、水稻など、今後の「農の里」になり得る品

目での就農が増えており、新規就農者が互いに勉強できる場として、篤農家が講師を務める「菜の花女子会」や「イチゴ絶対成功する塾」の開催を通じて、経営安定の実現を図っている。

② 就農するまでの伴走支援の強化

就農希望者に対して、支援センターが伴走支援をできる体制づくりとして、「就農トータルコーディネート」を行った。具体的には、市町やJAと密に連携した就農相談体制（三者会）により、各機関でのミスコミュニケーションをなくし、円滑な就農に導くことで、平成29年度から、これまでに58名の新規就農を受け入れることができた。これは、上記の「農の里」事業との相乗効果があったと考えている。就農希望者からは、「専門知識のある支援センターが随行してくれることで安心感があり有難かった」との意見を頂いている。

③ 新規就農者の経営発展に向けた支援

新規就農者において、発展段階に応じ、規模拡大するための施設・機械に対する補助事業や制度資金の活用を提案した。これまで7戸の新規就農者の規模拡大を支援することができ、農業者からは、「就農間もないうちに基盤を確かなものにすることができて助かった」との評価をもらった。



図1：親方制度



写真1 マンツーマン指導

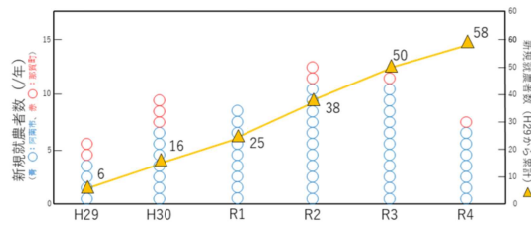


図2 新規就農者の推移



写真2 三者会（合意形成）

写真3 誘致活動（加茂谷）

今後の発展方向

本事例は、新規就農者の就農から定着に至るまでの支援を充実させ、産地全体を盛り上げていくものであり、令和4年度時点で、就農5年目までの新規就農者数が58名に上るだけでなく、就農定着率は91%の高水準となっている。これは、当支援センターが日頃から就農者に寄り添い、関係機関と密接に連携することで成し得た結果であると考えられる。

今後の発展も就農希望者を受け入れていくためには、このような支援を継続していくとともに、現在の新規就農者の活躍が次なる担い手を呼び込む「好循環」の力となるよう、関係機関・産地一体となり取り組んでいきたい。

関係者からの声

- ・新規就農者支援については、次世代投資資金の対応と合わせ、メンター制度の導入が図られ、JA・市町・県の三者の連携により順調にサポートができています。（市町関係者）
- ・就農時より、課題であった剪定技術について、先輩農家とのマッチング指導を受け、次のステージに進めそうだ。（新規就農者）

阿南農業支援センター

連絡先：徳島県阿南市富岡町あ王谷46 tel：0884-24-4182